

異人館
北野・山本地区では異人館と呼ばれる住宅が明治二〇年代ごろに建ち並ぶようになりました。伝統的な街なみが特に多く残されている区域は「伝統的建造物群保存地区」に指定されています。

ラインの館（旧トレウェル館）
一九一五（大正四）年に建てられました。「ライン」の名は外壁の下見板のライン（横線）がきれいなことから名付けられました。（木曜休館）

風見鶏の館（旧トーマス館）
この地区唯一のレンガ造りで一九〇九（明治四二）年に建てられました。尖塔の風見鶏は雄鶏が強い警戒心を持ち魔除けになると信じられていることから付けられました。（火曜休館）



萌黄の館（旧シャープ館）
一九〇三（明治三六）年に建てられ、長く「白い異人館」として親しまれてきました。一九八八（昭和六三）年からの解体修理で、建築当初は萌黄色であったことが分かり、当時の色合いで修復されました。

ビーナスブリッジ
一八七四（明治七）年に諏訪山でフランスの観測隊が金星（ビーナス）の観測を行ったことにちなんで、この名が付けられました。ここからは神戸の素晴らしい景色が見渡せます。

